

## 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 理事会

日 時：平成22年6月26日（土）午前8時～8時50分

場 所：札幌コンベンションセンター1階会議室

出席者：市村（理事長），飯野，小河原，川崎，工藤，阪上，坂田，佐野，鈴鹿，泰地，内藤，長井，春名，氷見，福永，細井，山中（理事），大越，安岡（監事），川城，田中（顧問），安達，香山，高野，深美（幹事）（50音順，敬称略）

### ・市村恵一理事長ご挨拶

市村恵一理事長より，本大会開催にあたって挨拶が述べられた。会員数も学会発足時の550名から現在900名を越えた。医師不足といわれているにもかかわらず，会員数が1年で100人以上増加したことについて説明があった。

### ・氷見徹夫会長ご挨拶

第5回会長氷見先生より，協力・支援に対する謝意が述べられた。

### ・平成21年度事業報告（庶務：泰地理事）

〔平成21年5月1日 - 平成22年4月30日〕

- 1) 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成21年6月27日-28日の2日間，名古屋国際会議場において内藤健晴会長のもとに開催した。
- 2) 第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成23年に自治医科大学さいたま医療センター耳鼻咽喉科，飯野ゆき子会長のもとに開催することが決定した。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第30巻2号，3号，および第31巻1号を刊行した。
- 4) 理事会および評議員会を平成21年6月27日に開催した。
- 5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 6) 「小児耳鼻咽喉科診療指針」を平成21年に金原出版より発刊した。
- 7) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力した。

8) 会則の改定案を作成し、承認を得た。総会並びに学術講演会に関する内規を設け、承認を得た。

9) 庶務報告：平成22年6月15日現在

名誉会員2名

正会員904名（うち21年度入会者120名）

団体会員11名

購読会員4名

寄贈会員8名

・平成21年度決算報告（会計：小河原理事）

小河原会計担当理事より、決算報告、資産の説明があった。

・会計監査報告（監事：大越，安岡監事）

平成21年5月26日に小宮山印刷において監査が行われ、適正であったことが報告された。

以上決算が承認された。

・平成22年度事業計画（案）（庶務：泰地理事）

（平成22年5月1日-平成23年4月30日）

1) 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年6月26日-27日の2日間、札幌コンベンションセンターにおいて氷見徹夫会長のもとに開催する。

2) 第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成23年に自治医科大学さいたま医療センター耳鼻咽喉科，飯野ゆき子会長のもとに開催に向け準備する。会期は平成23年6月16日-17日，会場は大宮ソニックシティである。

3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第31巻2号，3号，および第32巻1号を刊行する。

4) 理事会および評議員会を平成22年6月26日に開催する。

5) 定款施行細則を一部変更する。

6) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。

7) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。

8) ホームページの維持, 充実をはかる。

9) ad hoc 委員会として, 会則検討, 法人組織移行検討 (新公益法人制度), 人工内耳, 専門医制度の4つの委員会を設ける。

10) 小児気管切開患者のアンケート調査を支援する。

・平成22年度予算 (案) (会計: 小河原理事)

平成22年度予算案について説明があった。業務委託費は編集業務委託を含むことなどが説明された。以上, 承認された。

・学会誌編集報告, 投稿規程 (編集: 工藤理事)

編集委員の交代, および投稿数が大幅に増加し, 来年度から編集業務を小宮山印刷に委託したいとの説明があった。委託業務の内容と委託料 (年30万円) が承認された。

・各種委員会報告

ホームページ委員会 (委員長: 飯野理事)

入会や変更届がダウンロードできるようになったこと, 会員番号が検索できるようになったことが説明された。また, 学会案内として ESPO, アレルギー学会, 全国小児医療施設28施設をリンクしたことの説明があった。

用語委員会 (委員長: 細井理事)

特に大きな変更がなかったとの説明があった。

保険医療委員会 (委員長: 佐野理事)

診療報酬改定で喉頭気管分離手術, 嚥下機能検査が認められたとの説明があった。

各 ad hoc 委員会

会則検討委員会 (委員長: 内藤理事)

委員: 阪本, 林, 家根各先生

現在, 会則の見直しを行っているとの説明があった。今後, 法人化や専門医制度の立ち上げなど考慮する必要があると説明された。

法人組織移行検討委員会 (委員長: 坂田理事)

委員: 益田, 長井, 安達各先生

現在は任意団体であるが, 一般社団法人, 公益社団法人, NPO 法人への移行につき, メリットやデメリットを提示し, 今後検討していきたいとの説明があった。

人工内耳委員会 (委員長: 山中理事)

委員: 田中, 守本, 工藤, 福島, 内藤各先生

製造打ち切り後のアフターケアの問題などがあり、メーカーに問い合わせを行い、学会に提示していきたいとの説明があった。

- ・第7回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より、岡山大学西崎教授が推薦され、承認された。

西崎教授より挨拶があった。

- ・評議員の推薦の件（市村理事長）

荒川浩一教授（群馬大学小児科）

米倉竹夫教授（近畿大学奈良病院小児外科）

岡 明教授（杏林大学小児科）

高瀬眞人部長（日本医科大学多摩永山病院小児科）

奥中美恵子部長（明和病院耳鼻咽喉科）

以上5名が推薦され、承認された。

- ・会則細則改定に関する件（泰地理事）

細則第1条の4項を一部変更し、臨時会員に医学部学生を加え、また会費を無料とすることが承認された。

- ・第6回総会・学術講演会飯野ゆき子会長ご挨拶

2011年6月16日（木）、17日（金）の2日間、大宮ソニックシティで開催することが説明された。

- ・その他

市村理事長；情報センターからのプログラム収集の件

個人情報漏洩の可能性があるが、昨年保留になっていたが、本年も同じ依頼があった。個人情報が推定できる場所を除けるかを問い合わせ中で、今後も検討していききたいとの説明があった。

山中理事：販売製造承認された肺炎球菌の抗原迅速検出キットに対して、本学会から保険適応の要望書を提出していただきたいとの説明があった。以上、承認された。

理事長：市村 恵一

庶務担当：泰地 秀信

幹事：安達のどか

香山智佳子

（文責）深美 悟

## 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 評議員会

日 時：平成22年6月26日（土）午前 9 時～9時50分

場 所：札幌コンベンションセンター1階会議室

出席者：市村（理事長），飯野，小河原，川崎，工藤，阪上，坂田，佐野，鈴鹿，泰地，内藤，長井，春名，氷見，福永，細井，山中（理事），大越，安岡（監事），川城，田中（顧問），井口，宇佐美，熊本，小林，後藤，阪本，佐藤，鈴木，中川，仲野，西崎，林，増田，益田，望月（高），家根，山嵜（評議員），安達，香山，高野，深美（幹事）（50音順，敬称略）

### ・市村恵一理事長ご挨拶

市村恵一理事長より，本大会開催にあたって挨拶が述べられた。会員数も学会発足時の550名から現在900名を越えた。医師不足といわれているにもかかわらず，会員数が1年で100人以上増加したことについて説明があった。

### ・氷見徹夫会長ご挨拶

第5回会長氷見先生より，協力・支援に対する謝意が述べられた。

### ・平成21年度事業報告（庶務：泰地理事）

〔平成21年5月1日 - 平成22年4月30日〕

- 1) 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成21年6月27日-28日の2日間，名古屋国際会議場において内藤健晴会長のもとに開催した。
- 2) 第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成23年に自治医科大学さいたま医療センター耳鼻咽喉科，飯野ゆき子会長のもとに開催することが決定した。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第30巻2号，3号，および第31巻1号を刊行した。
- 4) 理事会および評議員会を平成21年6月27日に開催した。
- 5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 6) 「小児耳鼻咽喉科診療指針」を平成21年に金原出版より発刊した。

- 7) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力した。
- 8) 会則の改定案を作成し、承認を得た。総会並びに学術講演会に関する内規を設け、承認を得た。
- 9) 庶務報告：平成22年6月15日現在  
名誉会員2名  
正会員904名（うち21年度入会者120名）  
団体会員11名  
購読会員4名  
寄贈会員8名
  - ・平成21年度決算報告（会計：小河原理事）  
小河原会計担当理事より、決算報告、資産の説明があった。
  - ・会計監査報告（監事：大越，安岡監事）  
平成21年5月26日に小宮山印刷において監査が行われ、適正であったことが報告された。  
以上決算が承認された。
  - ・平成22年度事業計画（案）（庶務：泰地理事）  
（平成22年5月1日-平成23年4月30日）
- 1) 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年6月26日-27日の2日間、札幌コンベンションセンターにおいて氷見徹夫会長のもとに開催する。
- 2) 第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成23年に自治医科大学さいたま医療センター耳鼻咽喉科，飯野ゆき子会長のもとに開催に向け準備する。会期は平成23年6月16日-17日，会場は大宮ソニックシティである。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第31巻2号，3号，および第32巻1号を刊行する。
- 4) 理事会および評議員会を平成22年6月26日に開催する。
- 5) 定款施行細則を一部変更する。
- 6) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。

- 7) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。
- 8) ホームページの維持，充実をはかる。
- 9) ad hoc 委員会として，会則検討，法人組織移行検討（新公益法人制度），人工内耳，専門医制度の4つの委員会を設ける。
- 10) 小児気管切開患者のアンケート調査を支援する。

- ・平成22年度予算（案）（会計：小河原理事）

平成22年度予算案について説明があった。業務委託費は編集業務委託を含むことなどが説明された。以上，承認された。

- ・学会誌編集報告，投稿規程（編集：工藤理事）

編集委員の交代，および投稿数が大幅に増加し，来年度から編集業務を小宮山印刷に委託したいとの説明があった。委託業務の内容と委託費（年30万円）が承認された。

- ・各種委員会報告

- ホームページ委員会（委員長：飯野理事）

入会や変更届がダウンロードできるようになったこと，会員番号が検索できるようになったことが説明された。また，学会案内として ESP0，アレルギー学会，全国小児医療施設28施設をリンクしたことの説明があった。

- 用語委員会（委員長：細井理事）

特に大きな変更がなかったとの説明があった。

- 保険医療委員会（委員長：佐野理事）

診療報酬改定で喉頭気管分離手術，嚥下機能検査が認められたとの説明があった。

- 各 ad hoc 委員会

- 会則検討委員会（案）（委員長：内藤理事）

委員：阪本，林，家根各先生

現在，会則の見直しを行っているとの説明があった。今後，法人化や専門医制度の立ち上げなど考慮する必要があると説明された。

- 法人組織移行検討委員会（委員長：坂田理事）

委員：益田，長井，安達各先生

現在は任意団体であるが，一般社団法人，公益財団法人，NPO 法人への移行につき，メリットやデメリットを提示し，今後検討していきたいとの説明があった。

人工内耳委員会（委員長：山中理事）

委員：田中，守本，工藤，福島，内藤各先生

製造打ち切り後のアフターケアの問題などがあり，メーカーに問い合わせを行い，学会に提示していきたいとの説明があった。

・第7回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より，岡山大学の西崎教授が推薦され，理事会においても承認されたことが説明され，承認された。

西崎教授より挨拶があった。

・評議員の推薦の件（市村理事長）

荒川浩一教授（群馬大学小児科）

米倉竹夫教授（近畿大学奈良病院小児外科）

岡 明教授（杏林大学小児科）

高瀬真人部長（日本医科大学多摩永山病院小児科）

奥中美恵子部長（明和病院耳鼻咽喉科）

以上5名が推薦され，承認された。

・会則細則改定に関する件（泰地理事）

細則第1条の4項を一部変更し，臨時会員に医学部学生を加え，また会費を無料化とすることが承認された。

・第6回総会・学術講演会飯野ゆき子会長ご挨拶

2011年6月16日（木），17日（金）の2日間，大宮ソニックシティで開催することが説明された。

・その他

市村理事長；情報センターからのプログラム収集の件

個人情報漏洩の可能性があるが，昨年保留になっていたが，本年も同じ依頼があった。個人情報が推定できる場所を除けるかを問い合わせ中で，今後も検討していきたいとの説明があった。

山中理事：販売製造承認された肺炎球菌の抗原迅速検出キットに対して，本学会から保険適応の要望書を提出していただきたいとの説明があり，了承された。

市村理事長：理事長，理事，監事の任期が残り1年間となり，来年改選となる。選挙管理委員会を発足していくとの説明があった。



理事長：市村 恵一

庶務担当：泰地 秀信

幹事：安達のどか

香山智佳子

（文責）深美 悟